

報告書送付のご挨拶（抜粋）

「まえがき」に詳細は書いていますが、「焼却大国といわれるほど焼却施設が多いのに、施設を選択する、あるいは施設の運転状況を他施設と比較するためのデータが少ない」というのが研究の動機となっています。

この研究は一般廃棄物全連続式焼却施設すべてを対象とし、アンケートによってデータを収集しているのですが、アンケートに対して回収率 60%超という高い協力度を得ました。内容は、最初に単純な集計を行った後、炉形式別の分布比較、さらには評価という構成です。図表に対しては、巻末に数値データも掲載しました。第 4 章の炉形式別の比較には、図表を多用しており、一目で違いが分かるようになっています。さらに 4.5 節は性能比較と題をつけて評価のまとめとしたのですが、相当に生々しいと感じられるかもしれません。

数年前に、ベンチマーキングの研究を行いました。この報告書は焼却施設のベンチマーキング資料といえます。炉形式別の分布図より、他と較べて多いのか少ないのかが判断できるはず。また、自治体で焼却施設を建設する際に、他施設を見学して外観を眺めただけで採用し、用役使用量や運転費の高さに運転を始めてようやく気付くといったことが現実には多そうですが、そのようなことも避けられるのではないかと思います。

平成 24 年 3 月 30 日

北海道大学大学院工学研究院
環境創生工学部門 廃棄物処分工学研究室
松藤敏彦